国民健康保険料納付通知書を送付

保険料率は変わりません

6月9日㈬から順次発送

令和3年度国民健康保険料納付通知書を世帯主に送付します。国民健康保険は、病気やけがをしたとき、安心して医療を受けられるように、皆さんが保険料を、国・県・市などは負担金を出し合って、必要な医療費を社会全体で支え合う制度です。

納付書と同封書類（パンフレットは昨年度分）

昨年度からの変更点

税制の改正で基礎控除額が43万円になるなど、所得の計算方法や控除額などが変更されています。所得の少ない世帯への保険料軽減措置や保険料の賦課限度額、保険料率は、昨年度と変更ありません。

保険料の納付方法

保険料は、納付書や口座振替で納める普通徴収と年金からの天引きで納める特別徴収があります。9月30日㈭までに新規で口座振替を申し込むと、先着2000人にクオカード500円分をプレゼントします。

問健康保険課（☎0942・30・9030、FAX0942・30・9751）

暑さと新型コロナに対応した生活を

熱中症は体温が上がり、体温調節機能が働かなくなると、めまいや吐き気、頭痛などの症状が起きます。最悪の場合、死に至ることもあります。夏に向けて新型コロナを意識した予防のポイントを紹介します。
問健康推進課（☎0942・30・9331、FAX0942・30・9833）

①涼しい服装や日傘、帽子で暑さを避ける。

②のどが渇く前に小まめに水分補給。1日当たり1.2ℓが目安です。

③エアコン使用中でも小まめな換気を。エアコンは室内の空気を循環させるだけで、換気はできません。窓とドアなどを2カ所開けて換気してください。

④暑さに備えた体づくりと日頃から健康管理を。暑くなり始めの時期から無理のない範囲で運動をしましょう。

⑤マスクを着けると熱がこもるため、屋外で人との距離が2m以上取れるときは、適宜マスクを外して過ごしましょう。

健康推進課
佐々木芳子さん

熱中症予防の動画を配信しています。暑さに負けない体づくりのための、管理栄養士おすすめ料理などを紹介しています。

シリーズ
久留米入城400年モノ語り ⑧

命懸けで挑んだ床島用水

農民を助けたい庄屋の決意

今から約300年前、筑後川の北側の北野町、大刀洗町、宮ノ陣町、小郡市付近は、肥沃（ひよく）な土地ながら、水不足に苦しんでいました。目の前を流れる筑後川は、川幅が広く、流れも早いため、水を引くことは困難でした。川をせき止め、水路を作る計画をしても、隣接する福岡藩との紛争の種になるとして、40年もの間、計画は見送られました。筑後川から水を引くことは、農民たちの切なる願いでした。

宝永7（1710）年、大干ばつが村を襲い、飢え死にする者が続出しました。三井郡鏡村（現在の北野町金島）の高山六右衛門をはじめ5人の庄屋たちは、農民を救う決意をします。一命を投げ打つ覚悟で、工事の許しを久留米藩に要請。6代藩主・有馬則維は、これを認めました。

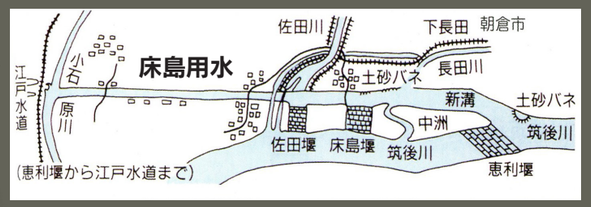
困難を極めた大工事

本流にある恵利堰（せき）で水をせき止め新溝に導水します。併せて、水量調整のための床島堰、佐田川との合流地点には、水量増加用の佐田堰を造りました。「床島用水」は、床島堰から小石原川の合流地点まで4300mも続きます。福岡藩の激しい抗議や妨害もあり、工事は困難を極めました。

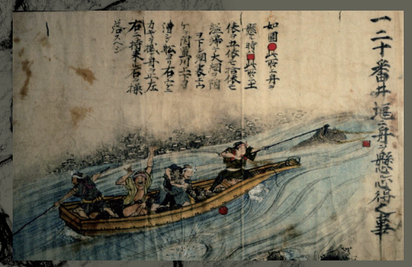
藩から派遣された草野又六と六右衛門は、3500人を指揮します。巨大な木や石も一瞬で押し流されるだけ。失敗の連続でした。最後は、山から数十万個の大きな石や墓石を運び出し、小石は50万個の石俵にして一気に沈め完成。工事費用は銀50貫、現在の金額で6000万円もの大工事でした。

問文化財保護課（☎0942・30・9225、FAX0942・30・9714）

久留米歴代藩主
初代 豊氏（とようじ）
二代 忠頼（ただより）
三代 頼利（よりとし）
四代 頼元（よりもと）
五代 頼旨（よりむね）
六代 則維（のりふさ）
七代 頼僅（よりゆき）
八代 頼貴（よりたか）
九代 頼徳（よりのり）
十代 頼永（よりとお）
十一代 頼咸（よりしげ）
■は今回のモノ語りと関わる藩主



▶恵利堰を主な堰にし、床島堰、佐田堰が完成。米の収穫高は、1.5倍に増えました


▲船をつなぎ一気に石を投げ入れる様子を描いた「床島堰築造絵図」。工事の心得、材木や石などの運搬の要領や器具の使い方が記されています

▲六右衛門を始め、工事の中心となった秋山新左衛門、鹿毛甚右衛門の地元である金島小学校では、毎年子どもたちが「とこしま堰物語」を演じています

HPならではの秘話も連載中！